

# Keiba Global Front Line

## 競馬グローバル・フロントライン

競馬の最前線で活躍する馬や人をご紹介します



### 合田 直弘

障害シーズンのクライマックスとなる「チエルトナム・フェスティバル（3月11日〜14日）」の、最終日のメイン競走として行われるG1ゴールドC（芝2670㍎）で、目下前売り1番人気の座にあるファクトトゥファイア（馴8、父ボリゲローテ）が、今月のこのコラムの主役である。

愛国における障害の伯楽ウイリー・マリンスが管理するファクトトゥファイアは、仏国産馬だ。ポイントトゥポイント競走を1戦した後、22/23年シーズンから大手馬主J. P. マクマナス氏の所有馬として、マリンス厩舎に在籍。最初のシーズンは、障害馬が走る平地競走のナシヨナルハントフラットを3戦している。レパーズタウンのINHフラットレース（芝20F）を制しデビュー勝ちを果たしたものの、続くレパーズタウンのG2フューチャースターズINHフラットレース（芝16F）、チエルトナムのG1チャンピオンバンパー（芝16F87㍎）で、いずれもアドリウムトウシエアの2着に敗れて、このシーズンを終えている。

その後にはファクトトゥファイアがとった進路は、いさか異例なものだった。このコラムでも何度か書いたと思うが、欧州の障害戦には大きく分けて「ステイプルチエイ」と「ハードル」の2つのカテゴリーがある。概略すれば、障害物の難度が高く、障害物の数も多いのが「ステイプル

チエイ」で、障害物が比較的容易で、障害物の数も少なめなのが「ハードル」だ。障害馬の経歴としては、前述したファクトトゥファイアのように、まずはナシヨナルハントフラットでデビュー。その後、ハードルに転身し、比較的安易な障害物を跳ばせて、飛越に慣れさせる。その後、飛越が巧みなことが確認できた馬については、ステイプルチエイに転身させるところが、一般的な進路となっている。ところが、ファクトトゥファイアは22/23年シーズンにナシヨナルハントフラットを3戦した後、23/24年シーズンはいきなりステイプルチエイに転身したのである。調教で、よほど巧みな飛越を見せたものと推察される。

ファクトトゥファイアは、23年11月19日にナウヴァンで行われたビギナーズチエイ（芝20F）で、ステイプルチエイデビュー。ここは、アメリカンマイクという馬に<sup>1</sup>/<sub>4</sub>馬身遅れをとる2着に終わったが、続いて出走した、23年12月28日にレパーズタウンで行われたビギナーズチエイ（芝21F70㍎）を17馬身差で圧勝し、障害における初白星を飾った。同馬の次走は、24年2月4日にレパーズタウンで行われたG1ラドブロークスノーヴィスチエイ（芝21F170㍎）だった。初勝利後にいきなりG1に挑ませたあたりに、陣

営のこの馬への期待の大きさが伺える。そして、なんと2頭立てとなったこのレースは、相手馬が最終障害で落馬してしまい、フィットトゥファクトは労せずしてG1のタイトルを手にしたのである。昨シーズンの最終戦となったのが、3マイル路線のノーヴィスチエイサーにとつて最大の目標になる、チエルトナム・フェスティバルのG1ブロードウェイノーヴィスチエイ（芝24F110㍎）で、ここを<sup>3</sup>/<sub>4</sub>馬身差で制し、戦線の最前線に躍り出た。

そして、24/25年シーズンの始動戦となったのが、24年11月24日にパンチエスタウンで行われたG1シヨンダーカンメモリアルチエイ（芝19F50㍎）で、ここでフィットトゥファクトは、23年・24年とG1ゴールドCを連覇していたギヤロパンデンヤン（馴8）、このレース連覇を狙つて出走だったファスタースロウ（馴8）ら、この路線のトップチエイサーたちを破つて優勝。この結果を受けブックメーカー各社は、G1ゴールドCへ向けた前売りでフィットトゥファクトを、オッズ3.5〜3.75倍の1番人気に浮上させたのである。大一番まであと2か月半余り、ステイプルチエイ3マイル路線がどのように推移していくかに注目したい。